

『小さな山梨一』を積み重ねていこう

間もなく、今月の例会でみなさんにお目にかかれること、大変楽しみにしています。地方によっては、豪雨、そして時には猛暑と、季節の変わり目は、不順な天候が続きます。くれぐれも、ご自愛ください。

私は、このところ、『青年塾』十八期生の修了発表会と出発式に追われていて、この手紙、そしてデイリーメッセージ送付が遅くなってしまいました。お許してください。

『青年塾』の修了発表会は、東京都内江東区にある中村中学・高校の校舎を借りて行いました。中村中学・高校は、「下町の子供達にも学びの場を」と、創設者が、下町で最初に立ち上げた女子専門の学校です。清澄公園に隣接する学校は、創設以来、既に百年以上が経過している名門校です。とりわけ、かつては、女子バレーボールの世界で全国を制覇し続けたことで知られています。

この学校の校長先生である梅沢辰也先生もまた、バレーボールの世界では一時代を画した人です。選手時代はもちろん、監督になってからも、輝かしい実績を誇っています。ダイエーのバレーボール部創設から携わり、日本一に導いたこともあります。

私達の修了発表会と出発式に、梅沢校長も同席していただきました。この校長先生の話が実に味わいがあり、人の心をとらえるものでした。例えば、『青年塾』の塾生諸君が、掃除や挨拶、ゴミ拾い等に取り組んでいる活動報告をした時、「バレーボールが強くなるためには、まず履物を揃えたり、きちんとした挨拶が基本です。私はそれを厳しく教えてきました。例えば、試合で日本一になることは、急には難しい。しかし、練習する体育館の履物を揃える日本一なら、なれるだろう。練習場での挨拶の見事さの日本一はめざせるはずだ。体育館の掃除日本一も可能だ。練習に使ったボールの手入れのきれいさで日本一にもなれる。そんな『小さな日本一』をいっぱい積み重ねていけば、やがて、バレーボール日本一になれると教えています」とおっしゃいました。まさに、私の思いと、梅沢校長の思いは一緒だったのです。

県民の期待が集まれば、運が開ける

『夢甲斐塾』もまた、同じ考え方をもちたいものです。夢甲斐塾の人達は、挨拶では山梨一だ。掃除を一生懸命取り組む点では、山梨一だ。会議の時間厳守については、山梨一だ。その気になればめざせる『山梨一』はいっぱいあります。『小さな山梨一』を積み重ねていけば、「あの人たちに山梨を良くしてほしい」といった県民の期待が自然のうちに集まります。期待が集まれば、なぜか物事はうまくいくのです。『小さな山梨一』をみんなで積み重ねていこうではありませんか。

『夢甲斐塾』

塾長 上甲 晃